



かしわの

No 475 (5月号)
令和2年 5月 1日
調布市立柏野小学校
校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp
ステイホーム

副校長 八木橋小百合

この4月より本校の副校長になりました八木橋小百合と申します。八雲台小学校に勤めていたおかげで、知っている方が多く、安心することが多いです。また、始業式・入学式で、582人の子ども達に会いました。しっかりと話を聞く子ども達に感動し、早く、子ども達の顔と名前を覚えたいと思いました。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、2月29日から、学校が休校になって、5月を迎えようとしています。さらに、緊急事態宣言が発令されて、お家でお仕事をされたり、職業によっては、どうしても職場にいかなくてはならない保護者の方もいたり、いろいろな立場の方がこの状況下の中にいると思います。

私が、今回のことから「気付かされたこと」がいくつかあります。

まず、今までの「当たり前」が当たり前ではなくなったということです。子ども達は、学校へ行くのが当たり前でしたが、今、学校が再開できない状況下に置かれています。ともすると、今までできていたことができなくなると、すべてができなくなったように感じます。だからこそこんな時に、今、私たち教職員が子ども達のために何ができるのかというのを考え、行動に移しています。

次に、家にいる時間が多くなって、家族で食事をする楽しさが増えたということです。今までは、お互いが「忙しさ」などを理由に、同じ屋根の下にいてもそれぞれが違う方向を見ていたような気がします。食事を一緒に作ったり食べたりすることで、同じ時を過ごせる幸せを感じる時間が増えました。そして、最後に「自然は季節通りに動いている」と

いうことです。木々は新緑を迎えています。私は、青森出身ですが、東京の真っ青な雲一つない空が大好きです。そんな東京の青い空や夕焼けの色が変わってきています。そして、夜空の月や星が以前よりもきれいに見えるようになったと感じています。

さて、これからも予測のつかない、そして、終わりの見えない状況下では、大人も子どもも不安です。人は、今やっている我慢がどういう結果につながるのか、先が見える意味のある我慢ならできるだけ、意味のない我慢は無力感や徒労感しか残らないそうです。だから余計に不安感が強くなるのです。私たち大人も不安になることを認めていきましょう。その気持ちを認めることで、私たちは、落ち着いて行動することができます。そうすることで、今、自分ができることが何かと考え、行動することができますと思います。

子ども達の『学校に行きたくても行けない、友達とも遊べない、体を動かしたいけどできない』等いろいろな不満や要望も受けとめて寄り添ってあげたいものです。しかし、気持ちを受け止めることと、要望を叶えてあげることとは別物です。希望が叶わなくても自分の気持ちを分かってもらえる体験をしたことで、子ども達は安心し、嬉しい気持ちになると思います。

人間は、人と人との触れ合いの中で成長します。それが、今は、「うつさない」「うつらない」のお互いの思いやりのための距離をとっています。今、自分ができる行動が、すべての人の命を守ることにつながることを信じて1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

